奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和六年一月度　入賞句一覧

投句数　七百八十六句

星野　勝　選

特選

誰もこず泣きそうになる冬の朝　　大垣市　箕浦　鈴菜（小六）

作者は六年生。集団登校では班長さんを任されているのかもしれません。寒い冬の朝もきっと下級生の子たちが来る前から集合場所に来ていたのでしょう。一人じっと待っている作者の姿が目に浮かびます。最上級生だからしっかりしなくてはという思いと、なかなか集まらない下級生の子たちへのいらだちとが、作者の心の中でぐるぐる巡っているのでしょう。「泣きそうになる」の表現にそれが見事に集約されています。作者はきっと責任感の強い人ですね。

じょやのかねぼくの一発なりひびけ　　大垣市　安藤　健人（小六）

大晦日の深夜、しんと静まり返った真夜中に、どこからともなく聞こえてくるのが除夜の鐘ですね。中には、地域の方が順番に鐘を撞くところもあるようです。作者はその一員として鐘つきに参加したのですね。全部で百八回鳴らすうちの一回を任された作者。緊張感とわくわく感が俳句から伝わってきます。心を込めた一発は、きっと新年の幕開けにふさわしく、力強く鳴り響いたに違いありません。

大みそか宿題やめて次のとし　　大垣市　丸毛　菜都美（小五）

一年を振り返ったり、家族との時間をゆっくり過ごしたり、年越しそばを食べたり・・・。大晦日の過ごし方はそれぞれですね。皆さんは冬休みの最中。作者は冬休みの宿題に取り組んでいたのでしょう。普段なら次の日にまわしても何ということはないのですが、この日ばかりは次の日にまわすと年が変わることになります。それが今回だけは特別なこととのように感じた作者の思いが俳句になりました。これも作者独自の視点ですね。

秀逸

ゆるやかに落ち葉流れる水門川　　大垣市　小川　颯矢（小六）

冬もみじ川にふわりと流れてく　　大垣市　羽原　雪乃（小六）

枯芭蕉風にふかれて葉が落ちる　　大垣市　芝合　咲奈（小六）

のびをしてカーテンあけるふゆのあさ　　大垣市　平尾　心結（小六）

さようならさっときえてく白いいき　　大垣市　柳瀬　才嬉（小四）

あたたまるゆずをおふろに入れました　　大垣市　ふじた　じゅんのすけ（小二）

蝋梅の甘い香りに胸おどる　　大垣市　伊藤　陽咲（小六）

朝おきて窓に手をかけ雪を待つ　　大垣市　中田　千尋（小六）

手袋をつけるつけない大げんか　　大垣市　服部　瑠南（小六）

生き物が見えなくなった白い冬　　大垣市　保母　優晴（小六）

入選

ばしょう像冬の風にも動じない　大垣市
冬の風思い出作る赤い橋　大垣市
初雪が僕のあたまに舞いおりる　大垣市
バス帰りみんなで話す冬の暮　大垣市
かれすすき風にふかれておどってる　大垣市
ふゆのそらひとつのほしにねがいこめ　大垣市
ばしょうさんかれ葉の中で進む旅　大垣市
ばしょうさん冬木桜をみつめてる　大垣市
かればしょうかぜにうたれてゆれている　大垣市
冬の川舟がずっとねでばんまち　大垣市
冬の川流されながらおよぐこい　大垣市
かみさまをおむかえするよおおそうじ　大垣市
大そうじここにあったかたからもの　大垣市
冬晴にマラソン大会うでがなる　大垣市
大そうじバタバタ走りやりなおし　大垣市
白息を吐いたら今日が始まるぞ　大垣市
クリスマスサンタ信じてねむる夜　大垣市
こたつにはすごいすがたの母がいた　大垣市
クリスマス外はキラキラ輝いて　大垣市
お母さんボーナスがでたやきにくへ　大垣市

選者吟

明渡り白息競ふ子らのこゑ　まさる

小中学生の部

二宮　乾太（小六）
吉田　涼花（小六）
野口　晄幹（小六）
和田　涼太（小六）
橋本　果歩（小六）
長谷川　ゆか（小六）
藤井　ほのか（小六）
日比　千咲子（小六）
前田　さくら（小六）
能登上　ひかり（小六）
小林　莉汐（小六）
かとう　いおり（小四）
早野　結菜（小四）
米山　葵（小四）
板山　輔孝（小六）
奥田　一希（小六）
田丸　誠士郎（小五）
細川　美月（小六）
上田　夏実（小六）
吉川　絢真（小六）